

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492600069		
法人名	社会福祉法人功寿会		
事業所名	グループホーム「七ヶ浜桜の家」	ユニット名	さざなみ
所在地	宮城県七ヶ浜町東宮浜字要害38-15		
自己評価作成日	令和2年12月15日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3 年 1 月 19 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔、自由、思いやりの気持ちをもって入居者ファーストとリビングパートナーの意識付けを常に持つようになっている。新型コロナウイルス対策に関して繰り返し勉強会を行っているほか、感染者発生を想定した訓練を行い出来る限りの備えをしている。家族とも会えず出かけることもできない入居者に対して少しでも楽しみや暮らしに変化があるように、お菓子を食べながらお茶のみをしたりゲームをしたりお菓子を作ったりクリスマスの飾りを作ったり、職員一人一人がほんの少しでいいので「楽しみ」の時間を作りだすように努力している。入居者それぞれの要望に合わせてしっかりと関わることが必須であり、ゆえに職員同士の連携が良くとれており、チームで入居者を支える体制が出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「七ヶ浜桜の家」は、JR仙石線下馬駅より車で10分の、松島湾を見下ろす小高い緑の多い住宅街の一角にあり、開設4年目を迎えたホームである。認知症カフェの開催や管理者が町内各所に出向き認知症サポーター養成講座の開催し、町の広報紙に認知症相談のコーナーを掲載など、町と連携を図っている。防災意識が高く毎月の避難訓練と新型コロナウイルス感染者発生時の想定訓練を実施している。コロナ禍の影響で不要不急の外出が出来ない中、ホームの庭で食事会や観桜会、合同誕生会、芋煮会、敬老会の感謝状の贈呈式を行い、戸外で過ごす楽しさを共有している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム「七ヶ浜桜の家」)「ユニット名 さざなみ 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	七ヶ浜桜の家の介護理念、笑顔、自由、思いやりを朝のミーティングで唱和して職員同士で共有している。	七ヶ浜桜の家の介護理念を基に、毎年行動指針を作成し、リビング等に掲示し職員で共有している。今年は、コロナ禍のため継続とした。入居者の好きな物を食べたい等思いを大切に、笑顔で過ごせるよう支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1月のどんと祭には参加できたが、コロナ禍の影響で地域との交流やイベントを行うことが出来なかった。	回覧板を区長がホームに持ってきてくれる。近所の方が旬のわかめや筍等届けてくれた。管理者が、地区の集会場で認知症サポーター養成講座の講師を務め、地域への貢献や協力関係を築いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を行い地域の方々に認知症を知ってもらうための活動を行っている。認知症カフェは中止している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響で運営推進会議を開催することが出来なかったが、事業所内の行事や防災訓練の様子を毎回報告している。	包括職員が毎回参加している。昨年6月よりコロナ禍のため、メンバーへ書面を直接手渡し、意見を貰っている。区長より、夜間の安全対策のため防犯灯の設置や笠松神社の獅子舞の受け入れ等話し合っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が主に町役場と情報交換をして、協力関係を築いている。入居者の財産管理について相談し、弁護士との話し合いを行っている。	介護認定の更新手続き、入居者の重度化や看取りについて報告している。町からの声掛けで、認知症カフェを開催し、地域住民が参加している。町より感染症対応のマスクやでグローブなどをもらった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を開き、身体拘束をしないケアについて学んでいる。また、身体拘束適正化委員会を3か月に1回行い不適切ケアについても職員間で話し合っている。	入居者から何か頼まれたとき「待っててね」等スピーチロックになっていないか、トイレ誘導が必要な方へ適切な誘導が来ているか等、適正化委員会で、本人に与える苦痛等を職員間で話し合い、拘束のないケアに努めている。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で学んでいる。また、不適切ケアの段階で職員同士注意や話し合える関係づくりに取り組んでいる。	年2回、高齢者虐待防止の勉強会を実施している。言葉や行動を制限していないかなど、日常を振り返り、不適切なケアをなくすこと等を職員間で話し合い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は勉強会で権利擁護や成年後見人制度について学ぶことが出来なかったが、まもりーぶ利用の入居者を通して、制度について知ることができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧な説明を心掛け、入居前に家族や本人を交えて不安な点や疑問について聞いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者から食事の時間が遅いとの意見があり、会議の中で対策について話し合った。ご家族から「認知症の人にはコミュニケーションが大事なんだって。だからいっぱい話しかけてね」とご指導いただき実践している。	直接面会が出来ない中、「暖かい服を着せて」や馴染みのパーマ屋に行けないから、訪問美容の依頼に対応した。家族に、生活の様子等写真入りで送付している。元気な姿を見られ安心と、コメントをもらった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場環境改善委員会は昨年度末でいったん中止にしている。介護業務以外の係の仕事が進まないでチェック表を作ってはどうかとの意見があり実践している。	職員は、管理者、主任に自由に発言することが出来ている。汚物室の整理整頓やリハパンの方がトイレに行けなくなり尿取りパッドの導入など反映された。家庭の事情のある職員へのシフトの配慮も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回個人面談を行い自己評価や仕事上の悩み不安などを話し合い、やりがいや向上心アップにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度初めは中止していたが、現在は月に1回勉強会を行っている。感染対策のため数人ずつで行っている。また、常にOJTを意識している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス対策訓練について、他事業所とリモート会議で話し合った。	近隣の事業所と電話で、コロナ禍での面会や職員の対応など話し合っている。グループホーム協議会がリモートで行われ、各ホームの近況報告やコロナ対応等情報交換をし、サービスの質向上に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から本人の状況について家族と話し合い、入居後も今までと変わらない生活を送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に相談や報告をして、話しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、職員で入居者が必要な支援と家族の要望に対しての話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者が一緒になって食事作りを行ったり洗濯物を干したり、たたんだりしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会ではビデオメッセージを流したり、窓越しの面会をするなど家族とのつながりを大切にしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響で外出や面会が出来ずあまりできていない。	誕生日に娘がサプライズで来訪し、窓越しにプレゼントや孫のメッセージを受け、ニコニコうれしそうに笑っていた。夫婦で入居してる方が、親類の命日に、墓参りに行った。仲良し同士一緒に入浴する方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がトラブルにならないようにテーブルの位置や席替えを行った。職員の介入が必要な場面と、見守っていい場面もあるので、バランスを取りながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されほかの施設に移られた方の家族に、その後の様子を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩が日課の入居者が外に出かけた際には、職員と一緒に出掛け安全を確認しながら歩いている。ご自身の言葉で伝えられない方が困っている時には察する努力を惜しまない。	広告を見て「エビフライや刺身を食いたい」、「ホームセンターで歯磨き粉を買いたい」等、希望を叶えた。言葉が不自由な方は、車椅子を動かしたり、うろうろした時トイレ等、動作から思いをくみ取り支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを確認することと家族から情報を得ることで、なるべく今までと変わらず生活できるように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で入居者一人ひとりをよ会話し観察してケース記録に残し、職員同士で共有している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望は何か、職員の手伝いが必要なことは何かを日々の関わりの中から見つけ、ご家族の要望も聞きプランにしている。会議の時に職員との意見交換をしている。	本人や家族の思いをアセスメントし、担当職員の意見を参考に、介護計画を作成している。6か月ごとにモニタリングし、変化があったときは随時見直している。失禁の多い方は、誘導からオムツに変更した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を記録し、毎日のミーティングや連絡帳などで情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の家族が整髪をしていたがコロナ禍の影響で出来なくなり、家族了解のもと職員がバリカンで髪の毛を切っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の影響であまりできていなかった。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの眼科受診時には看護師が同行して状態を報告している。ご家族が受診に同行する際には書面にて主治医に情報提供している。	2名の方は、希望する医療機関を家族が付き添い受診している。他の方は、月2回往診クリニックの訪問診療である。緊急時は、往診クリニックの24時間支援体制が出来ており、入居者や家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調の変化や排せつ状況を看護師に報告、相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に管理者が入院前の状況説明や入院中の状態、退院後の注意事項など病院との情報交換を行い、早期の退院に向けて連絡調整している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期について説明をしているが、状態の変化に伴い家族と一緒に話し合い再確認をしている。ご本人に聞けるときは、タイミングを見計らって希望を確認している。	終末期には、医療的見地から判断している。医師の判断により、終末期を迎えたい所や積極的に治療を望むか等の確認書を取り、看取りについて家族の同意を得ている。昨年2名を看取った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年消防署員が来苑して全職員が救命救急の講義実習を受けている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回避難訓練を行っている。繰り返し行うことで災害時に慌てずに誘導できるように訓練している。	夜間想定を含む、避難訓練を毎月実施し、防災意識を高めている。火元を通過しないよう気を付ける、火元に近い方を最初に避難する等改善点を確認した。新型コロナウイルス感染者発生時想定訓練も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	リビングパートナーとして接するよう心掛けている。年長者として尊敬の気持ちをもって声掛けするようにしている。	名前は「～さん」と呼んで、方言で話しかけている。失敗時は、周りに気づかれないように声掛けし、プライバシーにも配慮している。気分の良い日は、自分で選んだ服を着て、口紅を塗るなどしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から飲み物を選んでいただいたり、週一回夕食の献立を選んでもらって自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者から声をかけられたら、業務や作業を一旦やめてそばに行き話を聞くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えの際に服を選んでいただいたり、自分で化粧される入居者もいる。衣類が汚れていないか、髪や爪が伸びていないか、気温にあった服装か、など、気配りを行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りで野菜を切ってもらったり、盛り付けを一緒に行っている。食後に食器を洗ってくれたり、食器拭きを役割としてされる入居者もいる。	献立は、法人の管理栄養士が作成し、入居者からワカメ、筍の茹で方等を教わり調理している。誕生日には、希望を聞き牛丼やプリンケーキ、好物のマグロを食べている。お好み焼きを一緒に作り楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がバランスの取れたメニューを考え、本人の希望や咀嚼や嚥下状態に応じて食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはできていないが、起床時と就寝時には必ず行っている。噛みついてしまい口腔ケアが全くできない方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつや失禁の状態を職員で話し合い、本人に説明しながら尿取りパッドを使ったり、夜間のみポータブルトイレを使用するなど工夫している。	日中は、目力でトイレに行く方や声掛け、動作等のサインを把握し、トイレ誘導をしている。夜間は、オムツ交換、パッドの大きさ、ポータブル等個別に対応している。自宅でリハパンだった方が布パンに改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝乳製品を食べていただいたり、午前と午後に水分補給を促している。必要に応じて主治医と相談しながら下剤の服用も行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	本人の意思を尊重しながら気持ちよく入浴していただくように心がけているが、なかなか入浴していただけない入居者もいる。	一番風呂や熱め・温め等希望に合わせて、週2～3回の入浴である。拒む方は、時間を置いたり、職員を変えたり、声掛けに工夫し入浴に繋げている。重度の方は、介護浴槽を使用し2人体制で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前から居室のエアコンで室温調整をしている。朝は無理に起こすのではなく自然に起きられるようにカーテンを日の出と共に開けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を把握している職員は少ない。なかなか薬を飲んでもらえない入居者もいるが食事の場所や人、タイミングを変えて服薬してもらえよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりにあった役割を、押しつけにならないように声掛けをしている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響で外出の機会が減ってしまったが、玄関先に出でお茶飲み話しや食事をしたり、行事も外で行った。	天気の良い日は、ホームの周辺を海を眺めながら散歩している。玄関前や中庭でビンゴ大会や誕生会、感謝状や記念品贈呈の敬老会、芋煮会、月見、花見等楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の影響で買い物に行けなくなったので職員が代行している。ご自身でお金を所持している方はいない。財産管理について弁護士と話し合った方は、ご自身の意思をはっきりと伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望で家族に電話をかけている。手紙が届いた場合も本人に渡している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内装飾で季節感を出したり、朝、日中、夕方の照明や室温調整を行い過ごしやすい空間づくりを心がけている。	玄関に近い和室に、鳥居と入居者の願い事を書いた絵馬を飾っている。リビングに折り紙で作った紅葉、銀杏や絵手紙を飾り、温・湿度も適切で床暖房もある。テレビを見たり懇談をし、菓子を食べて過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サンルームに椅子を置いて一人の空間を作ったり食堂で食事以外ほどの席にも自由に座れるようにしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が今まで使っていた馴染みのものや写真、家具などを配置して、落ち着いた環境を作るようにしている。	使い慣れたテレビやラジオ、タンス、衣装ケース、位牌が置かれている。家族の写真を飾り、温・湿度も適切である。抱き枕を置き、ラジオを聞いたり、毎日位牌に水を供えるなど、これまでの習慣を大切に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札をつけ自分の部屋がわかるようにしている。トイレは居室の近くのところを使ってもらうことで迷いや混乱しないようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0492600069		
法人名	社会福祉法人功寿会		
事業所名	グループホーム「七ヶ浜桜の家」	ユニット名	あさひ
所在地	宮城郡七ヶ浜町東宮浜字要害38-15		
自己評価作成日	令和2年12月20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 3 年 1 月 19 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆さんにとっては感染予防対策のために窮屈な生活を強いられている毎日で、ストレスを感じていることと思っています。日々入居者それぞれの声に耳を傾け、気持ちを察する努力をしています。誕生会などの行事ではこじんまりとした開催ならではの工夫を凝らし、家族からのビデオメッセージや直筆の手紙、若い頃のお写真などのご協力をいただき、大切なご家族とのつながりが途絶えないように心掛けています。1年前と比べると日常生活の介助量が増えており、車いすや福祉用具を活用した、お互いに安心安全なケアに取り組んでいます。年度初めに離職が続きましたが半年かけて新しい職員が定着し、新たなチームとして走り出したところです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「七ヶ浜桜の家」は、JR仙石線下馬駅より車で10分の、松島湾を見下ろす小高い緑の多い住宅街の一角にあり、開設4年目を迎えたホームである。認知症カフェの開催や管理者が町内各所に出向き認知症サポーター養成講座の開催し、町の広報紙に認知症相談のコーナーを掲載など、町と連携を図っている。防災意識が高く毎月の避難訓練と新型コロナウイルス感染者発生時の想定訓練を実施している。コロナ禍の影響で不要不急の外出が出来ない中、ホームの庭で食事会や観桜会、合同誕生会、芋煮会、敬老会の感謝状の贈呈式を行い、戸外で過ごす楽しさを共有している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム「七ヶ浜桜の家」)「ユニット名 あさひ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝理念を唱和し心に留めている。仕事する中で迷った時は行動指針を振り返ることができるようにフロア内に掲示している。	七ヶ浜桜の家の介護理念を基に、毎年行動指針を作成し、リビング等に掲示し職員で共有している。今年は、コロナ禍のため継続とした。入居者の好きな物を食べたい等思いを大切に、笑顔で過ごせるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方から旬の野菜などを頂くので季節を感じる事ができている。 今年はボランティアも断り、入居者と地域の方々との交流が途絶えがちである。	回覧板を区長がホームに持ってきてくれる。近所の方が旬のわかめや筍等届けてくれた。管理者が、地区の集会場で認知症サポーター養成講座の講師を務め、地域への貢献や協力関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町と協力してキャラバンメイトとして活動している。毎月町の広報に認知症相談を受け付けている旨掲載されており、電話での相談が寄せられている。管理者は、認知症地域支援促進員に任命されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染拡大防止のため、報告書配布をもって開催としている。書面配布は委員の元へ出向き直接手渡している。	包括職員が毎回参加している。昨年6月よりコロナ禍のため、メンバーへ書面を直接手渡し、意見を貰っている。区長より、夜間の安全対策のため防犯灯の設置や笠松神社の獅子舞の受け入れ等話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退きの報告の他、骨折などの事故報告、入居者の状態変化などをお伝えしている。	介護認定の更新手続き、入居者の重度化や看取りについて報告している。町からの声掛けで、認知症カフェを開催し、地域住民が参加している。町より感染症対応のマスクやでグローブなどをもらった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月ごと開催している。「身体拘束適正化の指針」のもと、職員が話し合いながら身体拘束をしないケアを実践している。毎回、「この声かけでいいのか？」と不安に感じているという意見が多い。	入居者から何か頼まれたとき「待っててね」等スピーチロックになっていないか、トイレ誘導が必要な方へ適切な誘導が来ているか等、適正化委員会で、本人に与える苦痛等を職員間で話し合い、拘束のないケアに努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行っている。日々のケアを振り返り自分の意見を言うことと他者の考えを聞くことで学びや気づきを得られることを大切にしている。	年2回、高齢者虐待防止の勉強会を実施している。言葉や行動を制限していないかなど、日常を振り返り、不適切なケアをなくすこと等を職員間で話し合い、虐待防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この1年は権利擁護の勉強会を行っていないが、日々のミーティングなどで具体的に権利擁護につながる事案がある時に詳しく説明する機会を設けている。成年後見制度1名利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の意向を確認し、ご本人に入居することを伝え、丁寧に説明をしてご理解いただき入居契約を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	感染拡大防止のため家族会は開催していない。入居者ご本人から「朝食時間が遅い」との意見があり、会議で話し合い取り組みにつながっている。	直接面会が出来ない中、「暖かい服を着せて」や馴染みのパーマ屋に行けないから、訪問美容の依頼に対応した。家族に、生活の様子等写真入りで送付している。元気な姿を見られ安心と、コメントをもらった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回定期面談を行っているほか、必要な時に話を聞いている。入居者が窓際に花の鉢を置くため泥や水で周辺が汚れてしまうことへの改善策の提案があり、鉢を置くためのスタンドを購入している。	職員は、管理者、主任に自由に発言することが出来ている。汚物室の整理整頓やリハパンの方がトイレに行けなくなり尿取りパッドの導入など反映された。家庭の事情のある職員へのシフトの配慮も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の家庭や健康状態に配慮し、勤務時間や日数、休暇の取得などできる限り柔軟に対応している。人事考課表には評価のガイドラインを設けており、評価することで向上心を持ち続ける仕組みができています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対してカリキュラムに沿った指導を行うほか、職員それぞれと話し合いながら外部研修へ参加したりその時必要なOJTを行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	zoomなどにより他事業所と情報交換する機会を設けている。また、近隣の事業所とは電話やメールを用いて情報交換を行い、コロナ禍においてもサービスの質が低下ないように努力している。	近隣の事業所と電話で、コロナ禍での面会や職員の対応など話し合っている。グループホーム協議会がリモートで行われ、各ホームの近況報告やコロナ対応等情報交換をし、サービスの質向上に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを聞き、寄り添い、信頼してもらえるような関わりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が一番不安に思っていることを早期に見極め、説明を尽くしている。ご家族と事業所との信頼関係が入居者ご本人にとっても重要と考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にとってグループホーム入居が一番良いのか、今の暮らしを継続するほうが良いのか、あるいは他のサービスを利用するほうが良いのか、慎重に見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	リビングパートナーであることを意識し、洗濯、食事作りなど日常生活の中で出来ることを入居者と共に行っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染拡大防止のため、窓越しでの面会を行っている。毎月家族宛に生活の様子などを写真入りの手紙でお伝えしているほか、電話にて随時連絡を取っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染拡大防止のため、以前のように行えていないが、電話してほしいと言う要望に応えたり、行事の時にビデオメッセージを頂くなど、細々と続けている。	誕生日に娘がサプライズで来訪し、窓越しにプレゼントや孫のメッセージを受け、ニコニコうれしそうに笑っていた。夫婦で入居してる方が、親類の命日に、墓参りに行った。仲良し同士一緒に入浴する方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「いつもと同じ」を大切にしながら、時には口論になることもあるが、普通の暮らしを送れるように、カップリングやグループングに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで事例なし。いつでも相談に応じる体制にある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で入居者ひとり一人の声に耳を傾け、その声を拾う努力をしている。運転免許センターに電話したり買い物代行したり、今できることを最大限努力している。	広告を見て「エビフライや刺身を食べたい」、「ホームセンターで歯磨き粉を買いたい」等、希望を叶えた。言葉が不自由な方は、車椅子を動かしたり、うろうろした時トイレ等、動作から思いをくみ取り支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の協力を得てバックグラウンドを把握する。また、本人との日常会話の中から今までの生活歴や生活環境などを知り、ケアに活かすように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の様子を観察し介護記録や連絡帳で共有している。又、普段と変わったことがあれば申し送りで伝えている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	望む暮らしが送れるように、ご本人と会話をしたり何気ない言葉を拾いつつ、職員間で情報交換を行っている。また、ご家族の希望も聞きつつプランを作成している。	本人や家族の思いをアセスメントし、担当職員の意見を参考に、介護計画を作成している。6か月ごとにモニタリングし、変化があったときは随時見直している。失禁の多い方は、誘導からオムツに変更した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に記入している。ケアする中で気づいた事はその都度話し合い日々の支援に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	感染拡大防止のため柔軟な支援が行えていないが、福祉用具の活用を進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内にある他事業所と交流をしたり、ご近所の方がカフェ開催日に来苑し入居者と地元の話をしていたが、3月からはできていない。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医と連携して、必要な時に必要な医療が受けられるように配慮している。急変時の対応などで家族と医療機関の間に立ちスムーズに受診できるように気を配っている。	2名の方は、希望する医療機関を家族が付き添い受診している。他の方は、月2回往診クリニックの訪問診療である。緊急時は、往診クリニックの24時間支援体制が出来ており、入居者や家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	「いつもと違う」ことに対して、看護師と相談し主治医に報告するなど早期に適切な処置が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時点で、事業所として受け入れ可能な状態を病院側に伝えている。早期退院を目指してこまめに連絡を取っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期についてご家族の意向を伺っている。また、普段の会話から、ご本人の終末期の意向を聞くように努力し、本人・家族と事業所が同じ方針で支援できるようにしている。	終末期には、医療的見地から判断している。医師の判断により、終末期を迎えたい所や積極的に治療を望むか等の確認書を取り、看取りについて家族の同意を得ている。昨年2名を看取った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回消防署指導のもと心配蘇生法や応急処置の講義を受けている。その他、離苑対策やコロナ感染対策、緊急通報の訓練も行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人の災害対策について勉強会を行いどのように行動するのか備蓄品はどこにあるのかなど職員に伝えている。火災時の避難訓練は冬季を除き毎月行っている。	夜間想定を含む、避難訓練を毎月実施し、防災意識を高めている。火元を通過しないよう気を付ける、火元に近い方を最初に避難する等改善点を確認した。新型コロナウイルス感染者発生時想定訓練も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の会話の中で「その人」を知る事を大切にしている。その人に合わせた声かけをしつつ、共に暮らす入居者に対しても配慮した対応を心がけている。	名前は「～さん」と呼んで、方言で話しかけている。失敗時は、周りに気づかれないように声掛けし、プライバシーにも配慮している。気分の良い日は、自分で選んだ服を着て、口紅を塗るなどしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	嫌なこと、やりたくないことに対して嫌だと言える環境を大切にしている。また、食事のメニューと一緒に決めたり、ご本人に問いかけてご自身で決めていただける工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくり寝ていたい、ご飯はまだいい、夜にお風呂に入りたい、など、その日の希望に合わせてるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でできていた方が職員の手伝いが必要になったとしても、その人の習慣や好みに合った支援をするようにしている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回夕食のメニューと一緒に決めている。調理や配膳、後片付けなどそれぞれ得意なことやできることを手伝っていただき、みんなで食卓を囲んでいる。現在職員は感染対策のため一緒に食べていない。	献立は、法人の管理栄養士が作成し、入居者からワカメ、筍の茹で方等を教わり調理している。誕生日には、希望を聞き牛丼やプリンケーキ、好物のマグロを食べている。お好み焼きを一緒に作り楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作っている。食事水分量は毎回記録し、増減がある時は医療につなげている。その人に合った食形態で提供するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時に声掛けをしている。見守りや介助が必要な人には介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつを使っていない人は一人のみ。失禁した時は自分で下着を洗っている。排泄の記録をつけ、タイミングよくトイレ誘導を行うことを目標にしている。	日中は、目力でトイレに行く方や声掛け、動作等のサインを把握し、トイレ誘導をしている。夜間は、オムツ交換、パッドの大きさ、ポータブル等個別に対応している。自宅でリハパンだった方が布パンに改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その人の身体状況や病状に合わせて、主治医と相談しながら排便コントロールを行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	毎日入りたい方や3日に1回と決めている方もいる。ご本人の身体状況に合わせてタイミングよく入浴できるように職員間で連携を図っている。	一番風呂や熱め・温め等希望に合わせて、週2～3回の入浴である。拒む方は、時間を置いたり、職員を変えたり、声掛けに工夫し入浴に繋げている。重度の方は、介護浴槽を使用し2人体制で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自身で居室へ行って休んでいる時はそっとしておいたり、夜に眠れなかった時は少し長めに昼寝をして頂くこともある。共有スペースにいたほうが落ち着く方もいるので柔軟に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰がどんな薬を服用しているのかを把握している職員は多くない。服薬ミスがないように、服薬前後に職員間の確認作業を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自身で自分の仕事を決めて行動している方もいる一方で、歌うことが好きな方、ラジオを聞くことが日課の方、花が好きな方、などそれぞれが好む楽しみごとを見つけるように努力している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染拡大防止のため、緊急受診以外の外出は行っていない。外出できないことの情報提供を行いつつ、運転免許センターに行きたい、郵便局に行きたい、ホームセンターに行きたい、など要望はお聞きしている。	天気の良い日は、ホームの周辺を海を眺めながら散歩している。玄関前や中庭でビンゴ大会や誕生会、感謝状や記念品贈呈の敬老会、芋煮会、月見、花見等楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望する方、自己管理できる方には、わずかな金額だが所持していただいている。職員に渡そうとする入居者もあり、お気持ちだけ頂き丁寧に断りしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へ電話をかけたり手紙を投函している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	変化を少なくして「いつもと同じ」安心できる環境でありながら、季節を感じられるように工夫している。室内で花を育てて皆で愛でている。	玄関に近い和室に、鳥居と入居者の願い事を書いた絵馬を飾っている。リビングに折り紙で作った紅葉、銀杏や絵手紙を飾り、温・湿度も適切で床暖房もある。テレビを見たり懇談をし、菓子を食べて過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その人の希望やその時の状態に合わせて居室やサンルームで一人で過ごして頂いたり、食堂やリビングで気の合う入居者同士集まり茶話会をしたりできるように工夫している。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や今までご自宅で使っていたものなどをご持参頂き、新しい場所での暮らしが居心地よいものになるようにご協力いただいている。	使い慣れたテレビやラジオ、タンス、衣装ケース、位牌が置かれている。家族の写真を飾り、温・湿度も適切である。抱き枕を置き、ラジオを聞いたり、毎日位牌に水を供えるなど、これまでの習慣を大切に過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の身長に合わせて物干し台を低くしたり、ベッドから立ち上がりやすくするために介助バーを設置したり、入居者に合わせた工夫をしている。		